

施策評価シート(令和4年度実績評価)

◎施策の基本情報

政策No	0206	政策名	健康づくりの推進	施策主管課	地域医療対策室	課長名	長山 義博
政策の目指す姿	心身ともに健康に暮らしています						
施策No	03	施策名	地域医療の充実	関係課名	健康づくり課		
施策の目指す姿	安心して必要な医療を受けています						

現状と課題

【現状】
 ・市民アンケートでは、かかりつけ医などを持つ市民の割合は約7割から8割に増加し、また、病診機能の仕組みを理解している割合も約8割となっており、おおむね周知が図られています。
 ・地域医療連携の推進に資する岩手中部地域医療情報ネットワークへの市民の参加数は、令和4年12月時点で約9,400人と市民の1割程度となっています。
 ・岩手中部保健医療圏でも、周産期医療を支える医療機関の減少により、圏域内で市民がお産場所を確保することが難しくなっています。

【課題】
 ・かかりつけ医を持つことや病診連携の仕組みへの理解が高まってきていると考えられますが、限られた地域の医療資源を有効かつ効率的に活用して地域医療を維持・確保するため、市民にさらに周知するとともに、医療の関係機関と連携していく必要があります。
 ・岩手中部保健医療圏における周産期医療の維持を図るとともに、岩手中部保健医療圏外における周産期医療施設の活用を考える必要があります。

◎前年度の評価の振り返り

前年度評価時の今後の方向性

- ・かかりつけ医・かかりつけ歯科医を持つことについての意味やメリットをわかりやすく伝えながら、中部保健所等の関係機関とも連携して、ホームページや広報紙面をはじめ、市民が集う場における啓発をさらに推進する。
- ・市内産科医療機関に就職した医師・助産師・看護師に対する就職支援のための補助及び同産科医療機関に対し、医師を医師紹介会社を通じて採用した際に生じる手数料の補助を継続して実施する。
- ・地域医療の現状・問題等の調査を進めるとともに、花巻市医師会や中部圏域の基幹病院、保健所など、関係機関からご意見をいただきながら、新たな地域医療ビジョンの策定を進める。

反映状況

- ・病診連携の取組みを周知するため、市ホームページに「上手な医療機関の関わり方」として掲載したほか、広報はなまきにもコラムを掲載して周知を図った。また、「かかりつけ医をもちましよう」のチラシを各保健センターのほか特定健診会場に配架するとともに、「通いの場」等の健康講座等の機会に受講者へ配布した。
- ・市内産科医療機関に就職した医師・助産師・看護師に対し、就職支援等の補助を実施したほか、同産科医療機関に対し、医師を医師紹介会社を通じて採用した際に生じる手数料の補助を実施した。
- ・地域医療ビジョンの改定に向け、地域医療の現状等を調査し、データを集約したが、令和5年度において岩手県の保健医療計画の見直しが進められることが正式に示され、見直し後は県内の地域医療に関する環境・取組内容の変更が見込まれることから、この県保健医療計画が策定された後、同計画を踏まえて作業を進めることとした。

1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組

(1) 地域医療体制の推進

- ・病診連携に関する普及啓発やかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬剤師に関する情報提供：市ホームページへの掲載による啓発、各種健康教室・検診会場でのチラシ配布・配架
- ・医師会、歯科医師会や薬剤師会、医療機関等との連携：健康づくり推進協議会及び医師会・歯科医師会との懇談会、予防接種や検診等部門別の懇談会（書面開催含む）の開催
- ・休日当番医の実施と休日歯科診療所の運営：医師会及び歯科医師会へ委託し運営
- ・病院群輪番制や二次医療機関への支援：中部地域病院群輪番制病院（県立病院を除く）への運営費補助及び総合花巻病院への病院群輪番制当番日以外の休日・夜間診療体制整備に補助
- ・医師及び助産師等の確保対策：市内産科医療機関へ就職した医師・助産師等に対し、補助金を支給
- ・岩手中部地域医療情報ネットワークによる地域包括医療体制の構築：岩手中部地域医療情報ネットワーク協議会事務局運営費の補助及び同協議会にオブザーバー参加、同協議会との運営協議
- ・高度医療を担う医療機関への交通手段の確保：花巻市内と岩手医科大付属病院とを結ぶ連絡バスの運行経費補助（バス車両の貸与含む）
- ・岩手中部保健医療圏における周産期医療の中核病院を維持するとともに、それに対する交通手段の確保と市民が利用する岩手中部保健医療圏外の周産期医療機関への交通手段の確保：妊産婦に対する妊婦健康診査・出産・診療のための交通費一部補助
- ・岩手中部保健医療圏及び他の二次保健医療圏の医療施設へ妊産婦を搬送するための救急車の活用と情報提供：市内産婦人科へのチラシ設置、市ホームページによる周知

2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方	成果指標の測定方法	単位	区分	H31	R02	R03	R04	R05	R06
かかりつけ医を持っている市民の割合	県内の医療提供体制は、地域の各医療機関の医療機能や役割分担を明確にしたうえで患者が一貫した治療方針のもとに切れ目ない医療を受けられるようにすることを基本としている。かかりつけ医による診察は、地域医療サービスの入り口であることから、患者がかかりつけ医を持っていることを測ることで、地域医療に関する施策が市民にとって実効性のあるものとなっているかを測ろうとするもの。	出典：市民アンケート 問：あなたは、現在かかりつけの医療機関や医師をもっていますか。 (1)もっている (2)もっていない (1)と答えた市民の割合	%	目標値		79.00	80.00	80.00	80.00	
				実績値		73.20	73.90	72.70		
かかりつけ歯科医を持っている市民の割合	県内の医療提供体制は、地域の各医療機関の医療機能や役割分担を明確にしたうえで患者が一貫した治療方針のもとに切れ目ない医療を受けられるようにすることを基本としている。かかりつけ歯科医による診察は、地域医療サービスの入り口であることから、患者がかかりつけ歯科医を持っていることを測ることで、地域医療に関する施策が市民にとって実効性のあるものとなっているかを測ろうとするもの。	出典：市民アンケート 問：あなたは、現在かかりつけの歯科や歯科医師をもっていますか。 (1)もっている (2)もっていない (1)と答えた市民の割合	%	目標値		79.00	80.00	80.00	80.00	
				実績値		72.80	73.80	73.90		
いわて中部ネットに参加している市民の数	「いわて中部ネット」は、病院と診療所等が患者の診療情報等を共有し、市民が切れ目なく診療や介護サービスを受けられるようになるもので、市民がネットワークに参加することは「かかりつけ医」等を持つ契機となることから、市民が「いわて中部ネット」へ参加する人数を測ることで、地域医療に関する施策が市民にとって実効性のあるものとなっているかを測ろうとするもの。	NPO法人岩手中部地域医療情報ネットワーク協議会が集計する花巻市民の「いわて中部ネット」への参加登録者数	人	目標値		8,000.00	9,000.00	9,000.00	9,000.00	
				実績値		7,987.00	8,739.00	9,712.00		

3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
B	<p>■成果指標「かかりつけ医を持っている市民の割合」・・・【達成度b】 病診連携の仕組み、かかりつけ医を持つメリット等を市ホームページ、広報誌で伝え、啓発チラシを特定健診会場などで配架したほか、健康教室などの機会にも周知したが、昨年度より微減となった。コロナ感染の検査は可能な医療機関で受けざるを得ない状況であった影響があると思われる。また、診療所より病院で受診したいと考える市民も少なからずいると思われる。</p> <p>■成果指標「かかりつけ歯科医を持っている市民の割合」・・・【達成度b】 各種歯科検診事業を通じてかかりつけ歯科医の啓発・普及を行い、昨年度から微増となったが、目標には達していない。コロナ禍の受診控えの影響は徐々に回復していると思われるが、市内も含め、全国的に歯科定期健診の受診率は低く、自覚症状がなければ歯科医院へ通う機会がない方が多いことも要因と思われる。</p> <p>■成果指標「いわて中部ネットに参加している市民の数」・・・【達成度a】 ネットワーク事務局および構成市町（花巻市・北上市・遠野市・西和賀町）において広報紙やホームページ、SNS、コミュニティFMを通じて住民へ周知・参加啓発を行ったほか、これまでコロナ感染拡大防止のために控えていた、同ネットワーク事務局による病院での広報・参加勧誘活動が徐々に再開されてきたことから、参加者の増加へとつながったと考える。</p>

4 施策を構成する事務事業の検証

①市民のニーズや市の関与の必要性が低下した事業、②投入コストの割に成果が低い事業、③施策への貢献度の低い事業はないか
なし
<p>施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（地域医療ビジョン推進事業費）医師不足が解消されていない中、医師は働き方改革で労働時間の規制も始まることから、医療のひっ迫を防ぐためにも病診連携による医療体制をより進めていく必要があり、かかりつけ医・かかりつけ歯科医を持つ意味とメリットをさらに住民へ周知していく必要がある。 ・（妊産婦交通費支援事業費）令和2年度より、岩手県の補助を活用してハイリスク妊産婦への交通費支援を実施し、併せて市独自にハイリスク以外の妊産婦への交通費補助を実施しているが、ハイリスク以外の妊産婦の制度利用者は対象者数に比して少ないことから、より利用者の需要に合った内容へ見直す必要がある。
<p>新たに取り組むべき事業はないか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（地域医療ビジョン推進事業費）現在の本市の地域医療ビジョンは、平成27年度に策定したものであるが、花巻温泉病院の閉院や総合花巻病院の移転、周産期医療の状況など、現在までの間に市内及び中部医療圏域の医療機関・医療体制は大きく変化していることから、今後の地域医療を維持・確保するための方針・施策等の基となる地域医療ビジョンを見直す必要がある。

5 施策の総合的な評価

課題
<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度からは「医師の働き方改革」で医師の時間外労働が制限されることから、病院の診療への影響を抑えるためにも、住民がかかりつけ医（診療所）・かかりつけ歯科医を持ち、病診連携の中で医療機関を適正に利用する必要がある。 ・妊産婦交通費支援事業では、ハイリスク以外の妊産婦に対する補助は、対象経費をタクシー利用時に基準額を超過した分に限定して実施しているが、令和4年度中に出産された方に行ったアンケートでは、90%以上の方が通院手段が自家用車であるとの回答であったことから、より需要に沿った制度内容とする必要がある。 ・岩手県では、令和5年度中に今後の地域医療構想を踏まえ、公立病院の経営強化プランおよび次期保健医療計画の策定を進めることから、これらを踏まえ、花巻市の今後目指すべき地域医療ビジョンを定める必要がある。また、医師の働き方改革、医療需要などを踏まえて、県では県立病院の経営計画などの見直すことも予測されることから、現在の医療体制が確保されるよう、県に対して働きかけが必要である。
今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・病診連携の仕組み、かかりつけ医・かかりつけ歯科医を持つことの意味や必要性を、中部保健所等の関係機関とも連携して、市ホームページや広報はなまきをはじめ、市民が集う場において引き続き市民へ分かりやすく伝えながら、啓発を進める。 ・ハイリスク妊産婦への交通費支援については、自家用車や公共交通機関の利用料など、対象経費が広いことを踏まえ、ハイリスク以外の妊産婦の交通費支援における補助対象経費について見直し、拡充を図る。 ・岩手県の次期保健医療計画を踏まえつつ、地域医療の現状・問題等を把握し、花巻市医師会や中部圏域の基幹病院、保健所など、関係機関からご意見をいただきながら、市が進めるべき施策の方向性等を示す、新たな地域医療ビジョンの策定を進める。また、中部医療圏における周産期医療の拠点である県立中部病院の周産期医療の強化、地域にとって欠かすことのできないかかりつけ医療機関である、県立東和病院および県立中央病院附属大迫診療センターの維持について、県に対して強く要望していく。

施策を構成する事務事業一覧

No	事務事業名 事業内容(活動実績)	担当課	施策への貢献度		成果
			対象	意図	
			直結度		
010	地域医療ビジョン推進事業費 病診連携の普及啓発 (岩手中部地域医療情報ネットワーク協議会補助金：5,129千円)	地域医療	一致	直結	B
			A		
011	地域医療ビジョン推進事業費 市町村医師養成事業に負担金を拠出 (負担金額：7,002千円)	地域医療	間接・少数	直結	A
			B		
030	救急医療確保事業費 日曜祝日の休日当番医を実施 (休日当番医の受診者数：4,067人)	健康づくり	一致	直結	-
			A		
031	救急医療確保事業費 休日歯科診療所を開設 (休日歯科の受診者数：303人)	地域医療	一致	直結	-
			A		
032	救急医療確保事業費 夜間・休日の二次救急医療を確保 (輪番制病院の利用者：818人(総合花巻病院301人、北上済生会病院517人))	地域医療	一致	直結	-
			A		
050	妊産婦交通費支援事業費 妊産婦が産科医療機関を利用する際に要する交通費を一部補助 (ハイリスク妊産婦9人、ハイリスク以外の妊産婦3人)	地域医療	一致	直結	-
			A		
090	周産期医療確保対策事業費 市内の周産期医療体制の確保のため、市内産科医療機関に就職した産科医師及び産科医師を雇用した市内産科医療機関へ補助 (対象医師1名、対象助産師1名、対象産科医療機関1施設)	地域医療	間接・少数	直結	B
			B		